

津山高校 創刊号 県南クラブ

1995年9月1日発行
津山高等学校同窓会
岡山県南支部会報



「集い、語らい、そして、歌う100周年」

県南同窓会を11月12日開催

■岡山東急ホテル

津山高校同窓会岡山県南支部の懇親会を11月12日(日)午後1時から岡山市大供の岡山東急ホテルで開きます。当日は総会行事の後、懇親会に。アトラクションとして、生バンド演奏、隣国との文化交流(太極拳)、まぼろしの三梅十(利き酒会)などを用意しています。会費は男性

1万円、女性8,000円(いずれも年会費含む)です。

年に一度の機会です。昨年は豪華景品付きのクイズ大会などで大いに盛り上りました。ぜひご参加下さい。

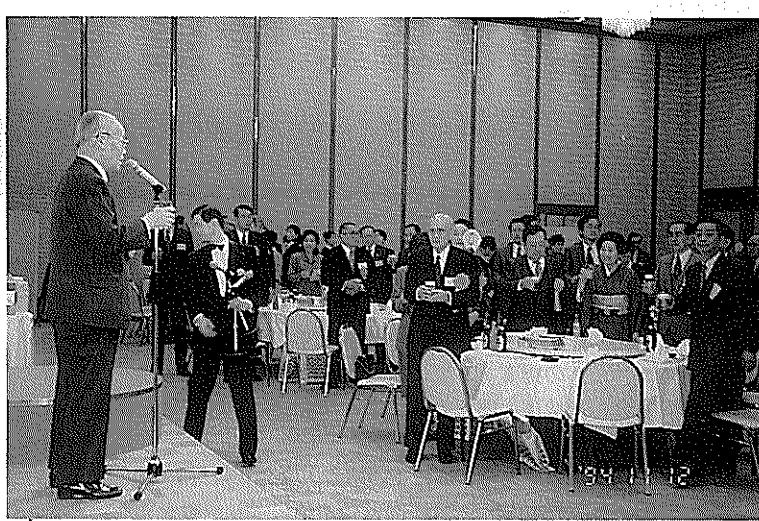
出次のご返事を同封のはがきで10月5日までにお寄せ下さい。



今年4月に県重要文化財に指定された母校の本館



「×だ!」。“津山”に関するクイズ大会で大いに盛り上がる(昨年の県南同窓会)



なつかしい津山の顔ぶれで「かんば~い」(昨年の県南同窓会)



ごあいさつ

「青春を再び」



津山高校同窓会岡山県南支部長
岡本 貴夫



岡山県南支部において、会報を出すことになった。発行を進められた中村道男副支部長を初め、会報編集部の各会員、会報発行のために寄付をして下さった会員、及び投稿をしていただいた会員に対し、心から感謝する次第である。

私は、旧制津山中学に昭和17年4月入学し、同22年3月に卒業した。現在60を超えているから、津山中学卒業後の人生の方はるかに長い。

しかし、津山中学の5年間の記憶は、その後の40余年の人生よりも記憶が鮮烈である。

1年から5年までの教室の状態、自分の机のまわりの友人、特色ある先生の授業を昨日のように思い出すことができる。

太平洋戦争が昭和16年12月8日に始まり、同20年8月15日に終わった。勤労奉仕で農村に行き、田植え・稲刈りの手伝いをし、中学3年（昭和19年）10月には玉野市にある三井造船所に学徒動員で造船の手伝いをした。男子ばかりで女子と交渉する機会はなかった。愛を語ることもなく、終戦までは日本の必勝を信じ、終戦後は今後の自分達の将来に対して不安を感じる毎日であった。

しかし、このままのたれ死にをしてたまるかとの気持ちと、やる気になればなんど

かなるとの気持ちがあった。現在と比較すれば、まことに暗い青春であったが、同窓生同士がお互いに励まし合う時代であったと言える。

同窓会総会で友人の顔を見ると、40年前のことが走馬灯のように流れていく。

昨年、県南支部総会で、仁木快治さん（昭和4年卒）に声をかけられた。「岡本さん、私はこの総会に出て、皆さんの元気な顔を見るのが生き甲斐だから、しっかり頑張ってください」と言われた。仁木さんは83歳で、毎年の総会に出席して戴いている。総会に出るために、健康に留意し、総会における津山の匂いのする盛り沢山の行事を見たり聞いたりするのが楽しみのことである。

このご芳志の金子で、後輩達の教育施設として記念館を建設し、県へご寄附したことになっていますので、ご了承頂きたく存じます。現在、設計実施中で竣工は来年度になる予定でございます。

終わりに、会員皆様の御健勝と支部の御発展をお祈りしご挨拶いたします。

（なかしま・けんきち、昭和3年卒、病院理事長）

（おかもと・たかお、昭和22年卒、弁護士）

同窓会支部便り

当方には戦前の津山中学校東京同窓会以来、長い歴史があり、中断はあったが、原則として年1回、総会及び懇親会が開催されている。100周年記念事業の募金活動に備えて、東京支部同窓会と改称し、関東地区に在住する約3,000人が登録されている。

卒業年次を代表する約120名の常任委員会を結成し、中心となる幹事会は毎年交替し、会費の徴収、名簿の追加・訂正、及び会務報告を全員に配布している。

本方針が審議決定されている。

年会費は2,000円で、年1回の総会ならびに懇親会案内、名簿の追加・訂正、及び会務報告を全員に配布している。

昨年度100周年を迎えるに当たり、同窓会の一層の充実、発展を図るために、以下の提案を本部に行った。

■同窓会の運営は、同窓会員による同窓会費で行うことが原則であると思われる。

■津山高校生の卒業時における同窓会入会金を現行3,000円から5,000円に増額することは、諸般の事情によりやむを得ないことと思われます。

会長1、副会長2（内男1、女1）。年2回の常任委員会で基



「旧制津山中学校に感謝する」
河原 太郎

私は大正14年旧制津山中学校に入学し、昭和4年修了で六高へ進んだ。中学の4年間、私は学校の構内で運動場の北側にあった第1寄宿舎（1舍）にいた。

1舍の躰はきっちりしていた。上級生に対しては敬語を使い、又これに服従しなければならない。部屋で暴れたり、騒いだりしてはいけない。廊下を大きな音を立てて歩いたり、走ったりしてはいけない。毎日午後6時から9時までは自習時間であって、この時間には自室で静かに勉強せねばならない。午後9時半に消燈、それ以後は寝なければならない。

自習時間には、舍監の先生が時々回って来るから、私は毎日よく勉強をした。英語、数学、国語、漢文の4科目について、私は毎日予習をした。英語、国語、漢文については、辞書をひいてわからぬ言葉を調べ、ノートに記載した。そのため、毎日の授業はよく理解でき、試験の時改めて勉強したことはなかった。

六高受験の準備としても、英語と数字について参考書を1冊ずつ、東洋史の参考書を1冊読んだくらいで、余り猛烈な勉強をした記憶はない。

学校の放課後夕食までの時間や日曜祝日等の自由時間を、私は軟式野球、軟式庭球、卓球、柔道、剣道などの運動に費やした。

こうした4年間の寄宿舎生活が、私の心と身体の成長に及ぼした効果ははかり知れない。私という人間の基礎はこの4年間に培われたといつても過言ではないだろう。

私は、今でも割合に丁寧な言葉遣いをするし、廊下や部屋を静かに歩く。私が六高へ入学できたのは、正に寄宿舎の自由時間のおかげだと思っている。

今度津山高校創立100周年記念事業の寄附を求められたとき、私は初めて以上のような寄宿舎の恩に思い及んだ。以前何回か、私は寄附を煩



「隨想」

阪神大震災を、激震地に住む私の友人は「押入ダンスが、押入を突き破って飛んできて、うちの寝た所に落ちてきてん。うちも1m半飛ばされとったから潰されんかったけどな」と表現していました。そして、「建物が倒れる音がして、悲鳴もしてるし」「親に電話が通じたときに『生きとったらそれでええねん』ゆうて切ったわ」とも。

地震のためいろいろな問題が起きましたが、阪神大震災ではマスコミに連日のように“心のケア”が取り上げられてきました。皆様覚えておいででしょうか。“PTSD（心的外傷後ストレス障害）”という言葉も、ニュース・新聞などで見聞きされたのではないかと思います。

日頃“心のケア”に携わっている人たちも、数多くがボランティアとして、あるいは派遣されて、神戸に行き、お手伝いをしました。

初めは「皆一緒にがんばろう」と助け合っておられたと聞きます。そして、“心のケア”的面でも問題になるのは、地震によるショックなためといえるような、元気の出過ぎや記憶喪失といったもので、皆様も無理からぬこととされていたように思います。

しかし、ある程度の時期が過ぎた頃、一部なのではありますが、「なんだか気味が悪い」「どこか余所へ行ってほしい」と言う方が見られるようになりました。それまで一緒にがんばってきたものの、疲れもたまってきたのか、自分達と違うところを持った人に対し、受け入れる余

わしく思ったものであるが、今度はできるだけの寄附をせねばならぬと心から思った。寄附した金額が左程多くないのは、私の資力不十分の故であって感謝の意が薄いからではない。

（かわら・たろう、昭和4年津山中4年修了、弁護士）



「心のケア」
片山 かほる

裕がなくなってきたのでしょうか。

「よくわからない人、訳のわからない人、得体の知らない人、怖い人、困った人」といった世間日常まだ残っているイメージが、表面に現れてきたのでしょうか。

世の中に、“心の悩み”を持たない方はほとんどないかと思います。多くの方は、悩みの理由を自他共に納得できたり、悩みを自分で処理できたり、それができないまでも何とか悩みを抱えながら生活されています。

しかし、中には、納得や処理ができず、悩みを抱えて生活するのもしんどくなってしまった方々もおられます。そういう方々や、“心の病”となってしまった方々を精神科を初めてする“心のケア”的仕事に携わっている専門家達がお手伝いしているのだと、私達は考えています。

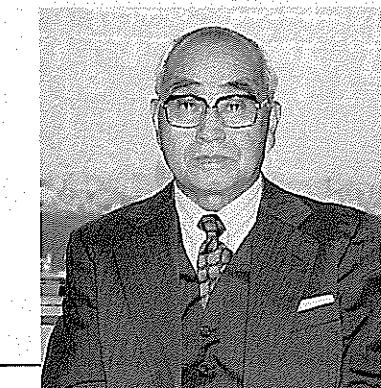
今回の震災では、神戸市の専門家・行政担当者の方々は、自らも被災者でありながら、身を粉にして“心のケア”を実践しておられました。こんな（非常）事態だからこそ、基本を忘れてはいけないという姿勢に、改めて教えられました。

今回の震災でマスコミが“心のケア”を大々的に取り上げ、その言葉が一人歩きしたきらいはあります。しかし、この影響もあったのでしょうか。國も“心のケア”に今までなく力を入れています。予算もかけています。震災後のケアだけでなく、この動きが今後の精神科医療全般に行き渡ることを願っております。

そして、震災後に見られた「どんな人も一緒に生きていき、助け合う」ということが、もちろん、誰にでも、どこでも可能だということを、一人でも多くの方々に知っていただくことも、精神科医療に携わっている者の役割だと感じさせられました。

（かたやま・かほる、昭和52年卒、精神科医）

東京支部●支部長 影山 圭三



■津山高校生を入学と同時に同窓会準会員とすることに異議はありませんが、準会員としての入会時に、入会金を徴収することは、いかがかと思われます。

■同窓会費の徴収法につきましては、難しい問題がありますが、原則として、津山高校5年乃至10年経過した時点から、各地区的の事情を考慮した上で、同窓会全員より年会費を徴収することが望ましいと思われます。

■同窓会の運営に、広く会員の意見を反映させ、各支部の情報交換および親睦をはかるために、東京および京阪神などの各支部副支部長のうち1名は、本部の副会長を兼務することが

望ましいと思われます。

特 集 津山高校100周年記念事業



ごあいさつ

津山高校校長 野嶋 淳一



本年4月よりお世話になっております。
どうぞよろしくお願ひいたします。

創立100周年記念事業につきましては、
多大な御尽力をいただき、ありがとうございました。記念館は、学校東隣の故美土路
昌一先輩がお住まいだった土地約500坪を
学校用地として岡山県に売却いただき、整
地後、お寄せいただいた多額の浄財で、多
目的ホールを中心とした建物を建築いただ
き、後輩達の教育に御提供いただくことと
なりました。竣工にはあと1年くらいを要
する見込みです。

「100年史」は9月に発刊します。1,100頁を超える記念誌で、貴重な記録を編纂委員会の皆様の手で掲載いただいております。まだお求めでない方は、是非とも1冊、お手元においていただきたいものと存じます。

100周年記念式典は9月9日に津山総合体育館で挙行いたします。式典を中心に美術展・回顧展・講演会等も予定しております。

校舎の改築も本年度から着手し、3年計画で完成の予定です。現普通校舎棟跡に4階建ての近代的校舎が完成します。既に運動場南に28教室の仮設校舎が完成し、2・3年生は移転して授業を行っております。

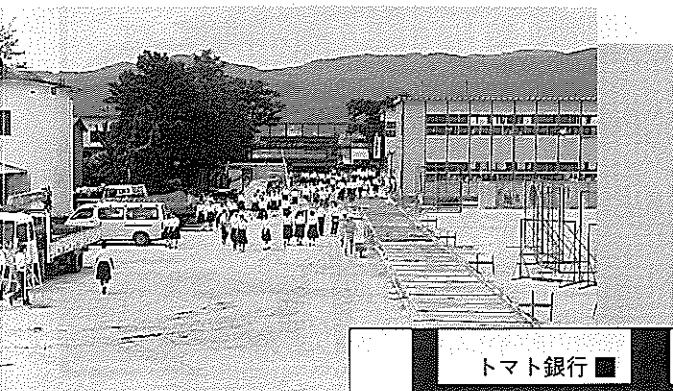
本館の永久保存につきましては、今年4月に岡山県教育委員会より、重要文化財に指定され、さらに国の指定を受けるべき手続きを進めております。

同窓会岡山県南支部の皆様の御健康とご発展をお祈りし、母校に対する変わりない御支援をお願いいたしまして、近況の御報告ならびに御挨拶いたします。



100周年記念音楽祭

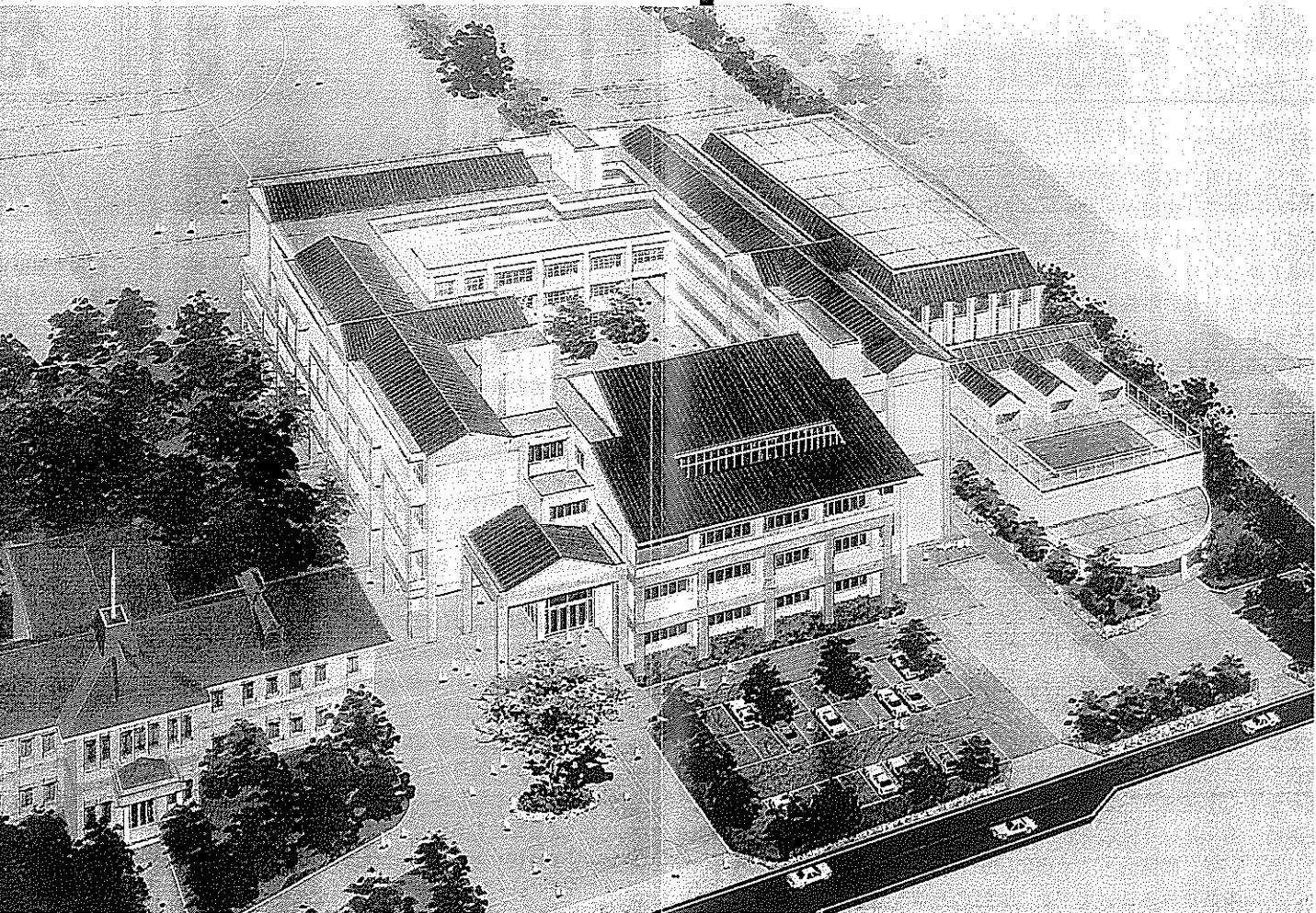
100周年記念事業の第1弾として6月24日、津山文化センターで開かれた記念音楽祭。音楽部や吹奏楽部、O B、O Gの演奏家による発表のほか、音楽の授業を選択する生徒らでつくる100周年記念合唱団が新しくできた応援歌を披露した。



■運動場南にお目見えした2階建てプレハブ校舎(右側)と、取り壊される前の軽鉄筋校舎(左側)=7月19日撮影。現在は一番南の校舎が全部、真ん中は三分の二、一番北は三分の一が取り壊され、1期工事に着手。校門北側にあった記念館も工事用車両の搬入路確保のため取り壊された。

校舎改築完成予想図

新校舎は「口」の字型。岡山県下で初めて授業ごとに教室が変わる教科型教室が採用される4階建て新校舎の完成予想図。工事は2期に分けて進められ、完成は平成10年3月の予定。昭和30年代前半に建てられた、“夏暑く、冬寒かった”あの軽鉄筋校舎は姿を消す。



津山高校応援歌

作詞 応援歌選定委員会
作曲 江見恭彦

一 那岐の山なみ	雲流れ
わが学び舎に	励み合う
遙かな希望	若き日々
さあ立ち上がり	いざ進め
われらの津高	わが津高
二 十六夜の山	風渡り
わが学び舎に	磨き合う
溢るる觀智	光輝あり
さあ立ち上がり	いざ走れ
われらの津高	わが津高
三 鶴山城趾	陽を浴びて
わが学び舎に	競い合う
鍛えし身体	意氣高く
さあ立ち上がり	いざ行かん
われらの津高	わが津高

100周年記念応援歌

今後の100周年記念事業

- ★記念式典
9月9日午前10時半、津山総合体育館。約2,500人が出席予定。
 - ★祝賀会
9月9日午後3時、津山国際ホテル。
 - ★回顧展・美術展
9月7日～10日、津山市立図書館・芸術展示ホール。学校ゆかりの品物、写真のほか、卒業生らの絵画、書道、工芸、彫刻などを展示。
 - ★十六夜祭（学校祭）
 - 体育の部 9月20日
 - 文化の部 9月21日
 - ★講演会
9月21日午前10時、津山高校体育館。岡山大農学部の目瀬守男教授（昭和26年卒）が「地域活性化と高校生」と題して、十六夜祭文化の部のイベントとして開催。